

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

No.3

さまたけ 左馬武神社と五輪塔

左馬武神社は、今川氏の一族で新野領主新野左馬助親矩公を祭った神社です。神社の社殿は、明治28年ごろに造営され、現在の社殿は、昭和49年9月に落成。落成式では、左馬助親矩公没後410年祭が併せて執り行われました。

社殿内に祭られている五輪塔は、左馬助親矩公の墓と伝わるものです。この五輪塔は、新野左馬助公の名跡を継いだ新野親良(※)が、親矩公の墳墓調査を家臣に命じ、嘉永4年(1851年)ごろ、新野村間蔵山中で石棺に納められていたところを発見されました。この墳墓は、新野氏墓所として顕彰整備され、後に左馬武神社として信仰されて現在に伝えられました。

※親良は、文化5年(1808年)井伊家11代直中の十男として出生し、家老木俣氏の養子となり中守と改名。その後分家して新野左馬助の名跡を相続し、天保13年(1842年)親良と改名しました。明治8年(1875年)没。



▲左馬武神社社殿



▲社殿内の五輪塔(地輪は後補)

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129

Atomic

暮らしと原子力

原子力をめぐり 2回目の意見交換会

原子力に関して本当に市民が必要としている情報は何か議論し、今後の情報発信に役

立てるため、市は2月9日、原子力広報研修センターで、町内会長や商工会、農協、消防団、民生委員など各団体の代表者ら36人による「第2回原子力に関する意見交換会」を開催しました。

はじめに、NPO法人国際環境経済研究所理事・主席研究員の竹内純子氏が「誤解だらけの電力問題―日本のエネルギー政策の現状と課題」をテーマに、わが国の現状やエネルギーゲームックスについて講演しました。

講演後、参加者は8つのグループに分かれ、市民にとってどんな情報が必要なのか話し合いました。参加者からは、「浜岡原子力発電所の再稼働はどうなるのか」「再生可能エネルギーのメリット・デメリット

トを知りたい」など、さまざま意見が出されました。

最後に、倉田千代治浜岡原子力総合事務所長が、1・2号機の廃止措置が第2段階に入ることや海拔22メートルの防波壁が完成したこと、軽油タンクの地下化工事など、原子力発電所に関する安全性向上対策工事について説明しました。

市では、行政からの一方的な情報発信ではなく、市民の皆さんが本当に知りたい情報の発信に努めていきます。意見交換会の様子や寄せられた意見などは、今後、市ホームページで紹介していきます。



▲意見交換会の様子